

富来地域小中学校適正規模・適正配置検討委員会  
(検討概要)

令和5年10月

富来地域小中学校適正規模・適正配置検討委員会

## 目 次

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| はじめに .....                      | 1  |
| 1 富来地域の小中学校の現状と課題 .....         | 2  |
| 1. 現在の学校配置                      |    |
| 2. 児童生徒数                        |    |
| 3. 今後の児童生徒数の推移と見込み              |    |
| 4. 富来小学校の現状と課題                  |    |
| 5. 富来中学校の現状と課題                  |    |
| 2 検討の基本方針 .....                 | 4  |
| 1. 諮問の概要                        |    |
| 2. 検討の視点                        |    |
| 3. 答申の視点                        |    |
| 3 地域の特色や小規模校の特色を活かした学校づくり ..... | 6  |
| 1. 小中一貫教育学校                     |    |
| 2. 学校選択制                        |    |
| 3. 山村留学                         |    |
| 4. スポーツ留学                       |    |
| 4 アンケート調査 .....                 | 7  |
| 1. 調査の目的                        |    |
| 2. 調査の対象                        |    |
| 3. 調査の内容                        |    |
| 4. 回収率                          |    |
| 5. 考察                           |    |
| 5 地域の関係団体の意見 .....              | 9  |
| 1. 調査の目的                        |    |
| 2. 依頼団体                         |    |
| 3. 意見の概要                        |    |
| 6 小学校・中学校の配置のあり方について .....      | 11 |
| 7 小学校・中学校の配置について .....          | 13 |
| 1. 小学校                          |    |
| 2. 中学校                          |    |
| 3. 小学校のあり方                      |    |
| 8 富来地域小中一貫教育学校について .....        | 15 |
| 1. 基本的な考え方                      |    |
| 2. 理由                           |    |
| 3. 期待される効果                      |    |
| 4. 施設整備                         |    |
| 5. 部活動の対応                       |    |
| 6. 開校予定時期                       |    |
| 9 今後の進め方 .....                  | 19 |
| おわりに .....                      | 20 |

## はじめに

富来地域においては、人口減少や少子化により児童生徒が減少し、平成17年4月1日に小学校を1校に統合し、現在、小学校1校、中学校1校の配置となっています。

しかしながら、人口減少に歯止めがかからず、引き続き、児童生徒の減少が進行すると、適正な学校規模の維持は難しくなることが予想され、子どもたちの学習や学校生活への影響のほか、学校行事の縮小、部活動等の制約といった諸問題が懸念されています。

この現状を踏まえ、PTA代表、地域代表、学校関係者、学識経験者の9名から構成される「富来地域小中学校適正規模・適正配置検討委員会（以下「本検討委員会」）は、富来地域小中学校における適正規模・適正配置のあり方について検討するよう、令和4年5月27日に町教育委員会より依頼されたものであります。

本検討委員会では、富来地域の子どもたちが健やかに成長できる環境づくりを最優先に、地域の特色を活かした学校運営や学校統合などの学校配置、学校の小規模化に伴う諸問題への対応など、地域の実情に応じた最適な学校教育のあり方や学校規模について、10回の検討を重ね、その概要についてとりまとめたものであります。

## 1 富来地域の小中学校の現状と課題

### 1. 現在の学校配置

富来地域では、平成17年4月1日に、西浦、西海、増穂、富来、熊野、稗造小学校（熊野、稗造は、平成15年に増穂小に先行統合）の6校を統合し、統合富来小学校が開校している。中学校は、昭和59年に富来地域全域を校区とした富来中学校が開校し、平成25年9月1日に現校舎（前富来高校）へ移転した。

現在、富来地域には、小学校1校、中学校1校の配置である。

### 2. 児童生徒数

富来小学校は、統合時（平成17年）児童数380人から、令和4年度には、106人へと推移し、人数で274人、率で72.1%の減少となっている。

富来中学校は、統合時（昭和59年）生徒数681人から、令和4年には85人へと推移し、人数で596人、率で87.5%の減少となっている。

### 3. 今後の児童生徒数の推移と見込み

児童・生徒数の将来推計については、令和4年度以降の就学見込みを、調査基準日（令和4年3月31日）に住民登録のある0歳から5歳までの人口を基に別に集計している。

また、令和4年度の数値がそのまま進級することとし、令和11～16年度は、出生数が仮に8人、6人、4人になったと想定して、在籍数を計算すると、以下（下表）のように推定される。

#### (1) 富来小学校の児童数の推移

#### 富来小学校 児童数の推計

(R5. 5. 1)

| 学年 | R4<br>年度 | R5<br>年度 | R6<br>年度 | R7<br>年度 | R8<br>年度 | R9<br>年度 | R10<br>年度 | R11<br>年度 | R12<br>年度 | R13<br>年度 | R14<br>年度 | R15<br>年度 | R16<br>年度 |
|----|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1年 | 13       | 14       | 8        | 16       | 8        | 14       | 9         | 8         | 8         | 8         | 6         | 6         | 4         |
| 2年 | 19       | 11       | 14       | 8        | 16       | 8        | 14        | 9         | 8         | 8         | 8         | 6         | 6         |
| 3年 | 18       | 18       | 11       | 14       | 8        | 16       | 8         | 14        | 9         | 8         | 8         | 8         | 6         |
| 4年 | 15       | 18       | 18       | 11       | 14       | 8        | 16        | 8         | 14        | 9         | 8         | 8         | 8         |
| 5年 | 22       | 16       | 18       | 18       | 11       | 14       | 8         | 16        | 8         | 14        | 9         | 8         | 8         |
| 6年 | 19       | 22       | 16       | 18       | 18       | 11       | 14        | 8         | 16        | 8         | 14        | 9         | 8         |
| 合計 | 106      | 99       | 85       | 85       | 75       | 71       | 69        | 63        | 63        | 55        | 53        | 45        | 40        |

※着色の学年は複式学級が想定される

令和5年からは、100人を切り、令和13年度前後から50人程度となり、学級編制基準からすると、複式学級が編制されるのは、令和13年度前後からと想定される。

## (2) 富来中学校の生徒数の推移

### 富来中学校 生徒数の推計

(R5. 5. 1)

| 学年  | R4<br>年度 | R5<br>年度 | R6<br>年度 | R7<br>年度 | R8<br>年度 | R9<br>年度 | R10<br>年度 | R11<br>年度 | R12<br>年度 | R13<br>年度 | R14<br>年度 | R15<br>年度 | R16<br>年度 |
|-----|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1 年 | 24       | 20       | 22       | 16       | 18       | 18       | 11        | 14        | 8         | 16        | 8         | 14        | 9         |
| 2 年 | 23       | 24       | 20       | 22       | 16       | 18       | 18        | 11        | 14        | 8         | 16        | 8         | 14        |
| 3 年 | 38       | 24       | 24       | 20       | 22       | 16       | 18        | 18        | 11        | 14        | 8         | 16        | 8         |
| 合計  | 85       | 68       | 66       | 58       | 56       | 52       | 47        | 43        | 33        | 38        | 32        | 38        | 31        |

令和10年度前後から、在籍数50人を切ることが予想される。

また、学級編制基準からすると、複式学級になることはない。

## 4. 富来小学校の現状と課題

### (1) 施設

開校以来18年経過し、施設の老朽化が進んでいる。また、空き教室が増えている。

### (2) 教育活動

児童数1学年13人から22人程度（令和4年度）であり、学習面での支障はなく、きめ細かな対応ができる。

しかし、児童数の減少により、委員会活動や運動会等のチーム分けや準備、清掃場所の分担が大変である。

## 5. 富来中学校の現状と課題

### (1) 施設

現校舎（前富来高校）は、教室数にゆとりがあり過ぎ「有閑スペース」が多くなっている。また、主たる暖房設備（スチームボイラー）が老朽化しており、故障することが多い。

### (2) 教育活動

少人数であることで、職員間で生徒の学習面、生活面での情報を共有しやすいため、学習規律や生活指導できめ細かい対応がしやすい。

しかし、クラス替えが無いことにより人間関係が固定化しやすく、競争意識を持つ機会が少ない。

部活動では、数（種類）が限られてきている（現在、男子バスケットボール部、男子卓球部、女子ソフトテニス部、吹奏楽部）。

学校行事では、体育祭や文化祭の内容が限定的となり、種目の数や催し物の内容に制限や制約が生じる。

また、教職員の教科担当では、音楽は志賀中との兼務、美術・技術家庭は配置がなく、免許外教科許可を申請して授業を担っている。

## 2 検討の基本方針

### 1. 諮問の概要

#### 諮問事項

富来地域小中学校における適正規模・適正配置のあり方について

諮問の趣旨においては、富来地域の子どもたちが健やかに成長できる環境づくりを最優先に、地域の特色を活かした学校運営や学校統合などの学校配置、学校の小規模化に伴う諸問題への対応など、地域の実情に応じた最適な学校教育のあり方や学校規模について検討し、提言する内容となっている。

### 2. 検討の視点

#### (1) 子どもたちが健やかに成長できる環境づくり

児童生徒が集団の中で学び合い、切磋琢磨することを通じて、思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身につけて行くことを大切にする。

#### (2) 地域の特色を活かした学校運営の工夫

富来地域の自然や歴史や風土などの地域の特色や、小規模校の特色を活かした学校運営の工夫を大切にする。

#### (3) 富来地域としての適正規模・適正配置のあり方

国が示す適正規模・適正配置の基準（下表）を志賀町に当てはめた場合、志賀地域と富来地域との児童生徒数の差が大きく、志賀町全体としての基準を策定することは難しいと判断した。

そこで、富来地域を対象として、地域の実情や地理的要因等を考慮した適正規模・適正配置を検討することとした。

国が示す適正規模・適正配置の基準

|      |       |                 |
|------|-------|-----------------|
| 学級数  | 小学校   | 12学級以上18学級以下を標準 |
|      | 中学校   |                 |
| 通学距離 | 小学校   | 概ね4km以内         |
|      | 中学校   | 概ね6km以内         |
| 通学時間 | 小・中学校 | 概ね1時間以内         |

志賀町立小中学校児童生徒数（令和4年度）

| 志賀地域          | 富来地域          |
|---------------|---------------|
| 志賀小学校<br>566人 | 富来小学校<br>106人 |
| 志賀中学校<br>304人 | 富来中学校<br>85人  |

- (4) 学校の小規模化に伴う諸問題への対応  
以下の課題に対する対応策を大切にする。

①小学校、中学校での共通課題

人間関係が固定化し、切磋琢磨する機会が少ない。

②小学校の課題

複式学級になると、間接指導の時間ができる。

③中学校の課題

部活動の選択範囲が限定される。

### 3. 答申の視点

- (1) 小中学校児童生徒やP T A保護者、富来地域の各種団体への意見を聞き参考にする。
- (2) 富来地域の子どもたちの将来を見据えた内容とする。
- (3) 考えられる配置例に対し工夫例や、課題の解決策等も答申内容に盛り込む。
- (4) 検討委員会で検討した足跡を答申内容に盛り込む。

### 3 地域の特色や小規模校の特色を活かした学校づくり

#### 1. 小中一貫教育学校

小中一貫教育とは「小学校（初等教育）と中学校（前期中等教育の期間）の義務教育期間の9年間で行われる一貫した系統的・継続的な教育」のことを指すものである。

小学校段階と中学校段階の教員が、教育上の目標を共有して教育が実施されること、9年間で系統的・継続的な教育カリキュラムが編成されること、9年間学習環境が安定することなどが特徴である。

県内における珠洲市立宝立小中学校、珠洲市立大谷小中学校、小松市立松東みどり学園を例とした小中一貫教育学校の概要を参考にすると、富来地域に当てはめてみても、導入可能であると判断する。

#### 2. 学校選択制

学校選択制とは「義務教育段階の小中学校等について、児童・生徒が進学する公立小学校・中学校を、保護者が複数校の中から選択できるようにした制度」である。

現在は、小学校2校、中学校2校の配置である。仮に本町に学校選択制を導入すれば、富来地域の学校に通学する児童生徒は更に減少することが予想されることから、学校選択制は適さないと判断する。

#### 3. 山村留学

山村留学は「自然豊かな農山漁村に、小中学生が1年間単位で移り住み、地元小中学校に通いながらさまざまな体験を積む」活動である。四季を通したさまざまな自然体験や野外活動、小規模校での授業、地元との交流など、1年の間に多くの体験ができる制度である。

また、全国にはさまざまな方式の山村留学があり、地域特性や受入方式、実施団体などによってそれぞれ特性をもった山村留学が実施されている。

課題として、山村留学は、町や地域がどのように児童生徒を集めるかがあげられる。また、学校や寮の整備、受入家族や事業所の選定など、様々な対応が必要となるなど、他県の受入状況を見ても、受入児童生徒数は少数で効果が見込めず、今後の検討課題とする。

#### 4. スポーツ留学

スポーツ留学は「競技力の向上や高い指導力等を求め、出身地を自主的に離れ、スポーツ強豪校等に通いながら、レベルの高い環境で互いに切磋琢磨できる制度」である。

現在、本町において全国規模で生徒を呼び込むことができるスポーツは、志賀高等学校のレスリング部があるが、競技人口は少数である。

また、現在、富来地域においてアーバンスポーツ施設の整備事業が計画されているが、指導者の確保や、山村留学と同様に受入の問題もあり、今後の検討課題とする。

## 4 アンケート調査

### 1. 調査の目的

本調査は、保護者等の意向を把握し、児童生徒の減少に伴う教育環境の整備と、教育上の諸問題を検討するための指標を得ることを目的とする。

### 2. 調査の対象

富来小中学校に就学している小学校3年生以上の児童・生徒及びその保護者、並びにとぎ保育園の保護者。

### 3. 調査の内容

回答者の属性、小・中学校の学校選択、望ましい学級数・学級人数、少子化の影響、小・中学校での教育。

### 4. 回収率

|           | 対象者数 | 回答者数 | 回収率(%) |
|-----------|------|------|--------|
| 全体        | 346  | 285  | 82.3   |
| 保護者       | 200  | 161  | 80.5   |
| うち保育園     | 47   | 26   | 55.3   |
| うち小学校     | 79   | 66   | 83.5   |
| うち中学校     | 74   | 69   | 93.2   |
| 児童(3年生以上) | 61   | 49   | 80.3   |
| 生徒        | 85   | 75   | 88.2   |

### 5. 考察（調査から見えてくる児童生徒・保護者の意向等）

#### (1) 保護者

- ・クラス数は、小学校は「今のままでよい」と考えているが、中学校は「2～3クラスがよい」と考えている保護者が多い。
- ・小学校では「ていねいな指導」を期待し、中学校では「多くの友達との切磋琢磨」、「部活動の選択の幅を広げること」を期待している。

#### (2) 富来小学校児童

- ・「学校の児童数」については「今のままでよい」と考えている児童が71%と3分の2を占める。
- ・「施設が余裕をもって使える」が24%、「学校全体が一体となって活動しやすい」が21%から見ると、現状の児童数や学校活動を肯定的にとらえている。
- ・授業については「たくさんの友達とのグループ学習で、いろいろな考えを知る授業を受けたい」が63%と、多人数を望んでいる。

- ・行事については「学校行事がさみしい」が49%から見ると、多人数がよいととらえている。

(3) 富来中学校生徒

- ・学校の生徒数については「多い方がよい」と「今のままでよい」が半々である。  
多い方がよい理由は「友達が増える」「クラスに活気」が多い。  
現状がよい理由は「まとまりやすい」「助け合うことができる」である。
- ・行事については「一人ひとりが活躍できる機会がある」と現状に肯定的の意見が多い。
- ・部活動については「希望する部活動ができない」が77%と、生徒数が多い方を望んでいる。

## 5 地域の関係団体の意見

### 1. 調査の目的

保護者児童生徒へのアンケート調査結果を踏まえ、富来地域の関係団体で意見交流をお願いし、今後の検討資料とする。

### 2. 依頼団体

富来小学校PTA、富来中学校PTA、とぎ保育園保護者会、富来小学校教職員、富来中学校教職員、富来小学校学校評議員、富来中学校学校評議員、区長会（富来地域）、富来商工会 計9団体

### 3. 意見の概要

各団体の総意という形ではなく、各団体とも様々な視点から意見をいただいた。

今後の検討の方向性として、想定される4パターンから主なものとして次のものがあげられる。

#### (1) 小学校、中学校もそのまま残す

- ・現状のまま統合はしない。（小P、中P、中T、小評議員、商工会、区長）
- ・小学校、中学校は、複式学級になっても富来地域において欲しい。（保育園）
- ・複式学級になるまで統合はしない。（中P）

#### (2) 小学校は残し、中学校は志賀中と統合

- ・中学校は、部活が限られているので統合がよい。部活動のことを考えると、統合した方が、体力づくりの大切な時期によい。（小P、保育園）
- ・アンケート結果から見ても、児童生徒の年齢が高くなるにつれて、少人数肯定項目より、多人数肯定項目を多く選んでいる。従って将来は統合が望ましい。（区長）
- ・児童数がどれだけ減少しようと小学校はなくさず存続配置する。  
中学校は、学年クラスが15名以下になる時期に、志賀中との統合がよい。（区長）
- ・小学校については、当面現状のままとし、複式学級になる頃を目途に、志賀小学校との統合検討を計画する。  
中学校については、できるだけ早く志賀中と統合し、大人数の中で成長できる環境を提供すべきである。（区長）

#### (3) 小学校、中学校とも志賀小・中と統合

- ・教育環境を考えれば統合がよい。（小P）
- ・当地区にはすでに子どもはいない。志賀町の1カ所に統廃合すべきである。（区長）
- ・最終的には、1町1校という選択肢は避けられない。（区長）

#### (4) 小中一貫校

- ・小中一貫校への移行がよい。(中T)
- ・富来の小中学校を1つに統合して残して欲しい。(保育園)

#### (5) その他

- ・とき保育園のこれからの人の意見を大切にする。(中P)
- ・子どもたちの負担(通学距離、時間)や地域の存亡を考慮し、十分な議論が必要であり、拙速な決定方針はして欲しくない。(区長)
- ・広い視野に立って将来の町の子どもたちのためにベストな結論を出して欲しい。(区長)
- ・部活動の改善をすべき。先行して志賀中と一緒に部活動を行うなど。(区長)

#### 【表記凡例】

小P→富来小PTA

中P→富来中PTA

中T→富来中教職員

小評議員→富来小学校評議員

保育園→とき保育園保護者会

区長→富来地域区長

商工会→富来商工会

## 6 小学校・中学校の配置のあり方について

### 小学校・中学校の配置にかかる3パターンの比較検討

小中学校の配置については「通学」「施設」「教育課程」「アンケート調査（保護者・生徒意識）」「部活動」の項目から比較検討すると、以下の様な3パターンが考えられる。

| 富来地域小中学校の配置に係る3パターン比較検討 |             |                  |                            |                    |                            |
|-------------------------|-------------|------------------|----------------------------|--------------------|----------------------------|
| 項 目                     |             | ①小学校、中学校ともそのまま存続 |                            | ②小学校は存続、中学校は志賀中と統合 |                            |
| 1 通学                    | 時間          | ○                | これまで通り                     | ○                  | 小学校はこれまで通り                 |
|                         |             |                  |                            | ×                  | 中学校は、負担が増す                 |
|                         | 輸送・スクールバス等  | ○                | これまで通り                     | △                  | 輸送計画の策定                    |
| 2 施設                    | 現校舎維持・修繕    | ×                | 小学校、中学校も老朽化が進行             | △                  | 中学校の維持費がかからない              |
| 3 教育課程                  |             | ○                | 現行通り                       | ○                  | 現行通り                       |
| 4 アンケート                 | 小：丁寧な指導     | ○                | 小学校は、少人数で丁寧な指導             | ○                  | 小学校は、少人数で丁寧な指導             |
| 保護者意識                   | 中：切磋琢磨      | ×                | 中学校の生徒数が少人数で固定             | ○                  | 中学校は、複数クラスとなり、切磋琢磨する機会が増える |
|                         |             |                  |                            | ×                  | 中学校の生徒数が少人数で固定             |
| 5 アンケート<br>児童生徒意識       | 集団での学校行事、授業 | ×                | 小、中学校とも行事の内容がさみしい<br>友達が固定 | △                  | 小学校はさみしいが、中学校は、活性化する       |
|                         | 施設の余裕       | ○                | 小、中とも余裕を持って使える             | △                  | 小学校は余裕を持って使える。中学校は、減る      |
| 6 中学校部活動                |             | ×                | 生徒の希望する選択肢が限られる。           | ○                  | 生徒の希望する選択肢が増える。            |
|                         |             |                  |                            | ×                  | 生徒の希望する選択肢が限られる。           |

#### (1) 小学校、中学校ともそのまま存続

##### ①メリット

- ・これまで通りの学校運営が継続する。

##### ②デメリット

- ・小学校、中学校とも施設の老朽化が進んでいる。
- ・中学校の生徒数の減少が進むと、生徒数からすると施設が大きすぎ、維持管理が困難となってくる。
- ・中学校部活動においては、生徒の希望する選択肢が限られる。

#### (2) 小学校は存続、中学校は志賀中と統合

##### ①メリット

- ・小学校では、これまで通りの少人数で丁寧な指導ができ、中学校では複数クラスとなり、切磋琢磨する機会が増える。
- ・部活動の選択肢が広がり、希望する部活動に取り組むことができる。

##### ②デメリット

- ・通学時間が長くなる。

### (3) 小中一貫教育学校

#### ① メリット

- ・ 富来地域の特色を活かした魅力ある学校づくりができる。
- ・ 9年間の系統的・継続的な学習により、教育効果が高まる。
- ・ 異学年交流により、社会性や規範意識が効果的に醸成される。

#### ② デメリット

- ・ 9年間クラス替えがなく、人間関係が固定化する。
- ・ 小学校卒業の達成感、中学校の目新しさが薄れる。
- ・ 中学校部活動においては、生徒の希望する選択肢が限られる。

## 7 小学校・中学校の配置について

前述の3パターンの比較検討から、児童生徒の今後の推移、地域の実情や特性、地理的条件などを勘案すれば、富来地域における学校配置は、次に示す内容が望ましい。

### 1. 小学校

#### 「現状通りとする」

##### 【理由】

- ・保護者、地域の関係各団体は、存続の意見が多い。
- ・保護者は、小学校では現状の少人数での教育環境を望んでいる。
- ・小学校の複式は、令和13年前後が予想され、当面は学習面・生活面での支障はない。
- ・志賀小学校へ統合となった場合、児童の発達段階から考えると、通学時間が長くなり、身体的・精神的負担が大きい。  
また、保護者は放課後児童クラブ等、送迎の負担が大きい。

### 2. 中学校

まず、中学校の配置については、今後の生徒数の減少を考慮すると、富来中学校単独での配置は難しいと判断する。

そこで、以下の経緯で検討を重ねてきた。

#### (1) 第5回検討委員会（2月6日開催）

これまでの資料やアンケート調査結果、地域の各団体の意見等から、小学校、中学校の配置について検討した。

##### 【各委員の意見】

##### ア 小学校

全委員の承認で、現状通りとする。

##### イ 中学校

志賀中学校との統合2人・小中一貫教育学校3人・小中一貫か統合3人以上のことから、小学校は「現状通り」、中学校は「志賀中との統合」か「小中一貫教育学校」で継続協議することを確認した。

#### (2) 第6回検討委員会（3月20日開催）

中学校の配置について「志賀中との統合案」「小中一貫教育学校案」のそれぞれの場合を想定し、両案の課題の対応策などを検討した。

【各委員の意見】

志賀中との統合 1 人・小中一貫教育学校 2 人

志賀中との統合・小中一貫教育学校との併記（2 案） 6 人

以上のことから「志賀中との統合・小中一貫教育学校」の併記案（2 案）で答申案を作成することを確認した。

(3) 第 8 回検討委員会（7 月 5 日開催）

答申を「志賀中との統合・小中一貫教育学校の併記案（2 案）」で作成するか、「志賀中学校との統合」と「小中一貫教育学校」のいずれかの 1 案に絞るかで検討を進めた。

【各委員の意見】

1 案に絞る（小中一貫教育学校 5 人）

1 案に絞る（これまでの統合案から小中一貫教育学校に変更 1 人）

2 案とする（志賀中との統合・小中一貫教育学校の併記案 2 人）

以上のことから、答申は 1 案（小中一貫教育学校）とすることで取りまとめた。

これらの経緯を踏まえ、中学校は次の案とすることが望ましい。

「小中一貫教育学校」

【理由】

- ・ 富来地域の特色を活かした魅力ある学校づくりができる。
- ・ 9 年間の系統的、継続的な学習により教育効果が高まる。
- ・ 異学年交流により、社会性や規範意識が効果的に醸成される。
- ・ 保護者（保育園、小学校、中学校）、教職員（小学校、中学校）から、小中一貫教育学校を望む意見が多い。
- ・ 部活動は、地域移行に伴い、志賀中学校との合同部活動で実施すれば、生徒の希望する選択肢を増やすことができる。

3. 小学校のあり方

前述のとおり、検討の課程において、小学校は「現状通りとする」とし、中学校のあり方に重点を置き検討してきた。

その結果、中学校は「小中一貫教育学校」と取りまとめたことから、小学校も同じく「現状通りとする」から「小中一貫教育学校」と再度意見を取りまとめた。

## 8 富来地域小中一貫教育学校について

### 1. 基本的な考え方

富来小学校及び富来中学校を集約し、施設一体型の小中一貫教育学校（仮称：志賀町立富来小中学校）を開設することが望ましい。

### 2. 理由

小中一貫教育学校の設置が望ましい理由は次のとおり。

- (1) 志賀小学校・志賀中学校との統合は通学時間が長くなり、児童生徒の負担となる。
- (2) 富来地域の特色を活かした教育環境を整えることができる。
- (3) 富来小学校・富来中学校の結びつきが強く、小中学校間の連携の面でも成果をあげている。
- (4) 学校と地域の連携も強く、小中学校を同じ地域の学校として支える環境や仕組みが整っている。

### 3. 期待される効果

小中一貫教育学校では、学習指導要領に準拠した学年の区切りを維持しつつ、次のような特色ある教育活動を進めることができる。

#### (1) 学校運営体制

小中一貫教育学校は、法律上は小学校と中学校を基本とするが、小学校と中学校が一つの学校として、一体となった組織体制を編制することができる。

#### (2) 小中学校の交流

小学校と中学校の施設が一体化するメリットを活かし、授業や学校行事などの交流を深め、9年間を通じて互いに人間関係を深める交流活動を行うことができる。

また、小中学校の教員は相互に連携協力し、心身発達段階に応じた、9年間を見通した学習指導や生徒指導を行うことができる。

#### (3) 9年間の一貫した教育課程

現行の学習指導要領の範囲内で、各教科、領域等において9年間を見通した教育課程を編成する。作成にあたっては、小中学校の接続を円滑化するために、学習規律や指導方法に一貫性を持たせるとともに、児童生徒の発達段階に応じて重点化すべき項目を明確化することができる。

#### (4) 教員の小中間交流

教員の専門性を最大限に活かすため、小中学校教員の兼務発令により学校間授業を行うとともに、小学校高学年では、一部教科担任制を導入することができる。

(5) 富来地域の特色を活かした学習

富来地域は、豊かな風土や歴史、文化的行事に恵まれており、これまで小中学校では、これらの教育資源を活かした教育活動を展開してきた。小中一貫教育学校では、これまで小中学校で取り組んできた実践を踏まえ、各教科、各領域を通じてふるさとを知り、ふるさとを愛する、ふるさと学習を展開することができる。

#### 4. 施設整備

施設整備では、新校舎建設、富来小学校施設利用、富来中学校施設利用の3パターンが考えられる。

(1) 新校舎建設

富来小学校・中学校ともに施設の老朽化が進んでいる。そこで、10年後の児童数を見込んだ、コンパクトな新校舎建設が考えられる。

(2) 富来小学校施設利用

①収容人数

富来小学校校舎は、統合時に校舎を増築している。また、児童数も当時380人在校しており、中学校生徒100人弱を収容しても、収容能力は十分である。

②立地・通学

現在の小学校は、国道沿いに立地し、大型バス等の進入も容易である。

通学については、引き続きスクールバスを利用した小・中学生の通学が基本であり現行とほぼ違いはない。

③施設

運動場が手狭であり、体育館も1棟のみである。教室数は多く活用しやすい。

④予想される改修の概要

ア 屋内の改修

特別教室、普通教室、職員室等の改修が必要となる。

(理科室や家庭室等で机の高さの変更、手洗いの新設、照明のLED化など)

イ 運動場等の改修

体育館のアリーナ、ステージ、用具庫の改修、部活動部室の新設、運動場の整備、駐輪場の整備 等

(3) 富来中学校施設利用

①収容人数

富来中学校は、前富来高等学校の施設であり、収容能力は十分である。

## ②立地・通学

学校が、富来地域の中心部の富来領家町区にあり、また、小学校児童の7割、中学校生徒の8割が、前増穂小校区・前富来小校区在住であり、通学の面で利便性がある。（スクールバスの運行数も削減できる）

## ③施設

運動場が広く、体育館も2棟あり、教室数も多く活用しやすい。  
（隣接するホッケー場も活用可能）

## ④ 予想される改修の概要

### ア 屋内の改修

前富来高校の校舎であり、小学校児童向けの改修が必要となる。  
階段の段差、教室を小学生向きに、児童玄関 等  
スチーム暖房の改修 等

### イ 運動場等の改修

外壁回りの改修等

## 5. 部活動の対応

部活動の地域移行（土日）が以下の様に実施予定である。

| 年度               |                                                                    | 予定等                                                                                                                          |
|------------------|--------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2023年<br>(令和5年度) | 改革推進期間<br>(3年間)<br>※国は令和5年度は3割<br>程度の運動部・文化部<br>の地域移行を目標とし<br>ている。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動検討委員会</li> <li>・第1回試行（運動部5、文化部0）</li> <li>・アンケート<br/>児童生徒 保護者 教員 競技団体等</li> </ul> |
| 2024年<br>(令和6年度) |                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動検討委員会</li> <li>・第2回試行（運動部5、文化部1）</li> </ul>                                       |
| 2025年<br>(令和7年度) |                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動検討委員会</li> <li>・第3回試行（運動部5、文化部1）町目標5</li> </ul>                                   |
| 2026年<br>(令和8年度) | 完全実施                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・町目標10割</li> </ul>                                                                    |

今後の部活動検討委員会の中で、部活動を町単位（志賀中学校と富来中学校と合同）で行うなどを検討し、富来小中一貫教育学校となった場合でも、生徒の部活動選択肢を増やす形で対応することができる。

## 6. 開校予定時期

「できる限り早期に開設することが望ましい」

### 【理由】

- ・ 著しい児童生徒数の減少により、小学校の複式学級編制も迫る中、教育環境の充実を図るため、早期の開設を望む。
- ・ 珠洲市立宝立小中学校設立を例とすると、準備期間に5年程度は要する。  
(保護者・地域への説明、準備委員会の開催、学校施設の整備、教育課程の編成等)

## 9 今後の進め方

### 今後の基本方針（学校適正配置案）の策定と決定

本検討委員会の答申後、今後の基本方針（学校適正配置案）を策定、正式決定することが想定されるが、以下の点に留意して進めていただきたい。

- (1) 総合教育会議等で十分な議論や、シミュレーションをして策定すること。
  - ① 「富来地域小中一貫教育学校」開設に向け、答申したメリット・デメリットを参考にし、メリットの活用、デメリット（課題）の具体的な解決策などを設定し策定する。
  - ② 富来地域の子どもたちが健やかに成長できる環境づくりや、地域の実情に応じた学校教育の実現に資する観点から策定する。
- (2) 保護者及び地域住民への十分な説明を行うこと。  
保護者及び地域住民に説明会等を開催するとともに、情報提供に努める。
- (3) 保護者及び地域住民への説明会の意見を受け、正式決定すること。

## おわりに

富来地域における児童生徒数の著しい減少という課題を踏まえ、本検討委員会では、諮問を受けた「富来地域小中学校における適正規模・適正配置のあり方」について、10回にわたり様々な角度から、調査・検討を重ねてきました。

適正規模・適正配置については、国や県から標準規模が示されていますが、富来地域の現状を踏まえ、富来地域としての実情や地理的要因等を考慮したあり方を提言しました。

今回の答申が目指すものは、富来地域の特色を活かした学校運営や学校統合などの学校配置、学校の小規模化に伴う諸問題への対応など、富来地域の子どもたちが、健やかに成長できる環境づくりです。

この答申が、富来地域の保護者や学校教職員、地域関係者は言うまでもなく、広く住民の皆様が今一度、志賀町の子どもたちの教育や未来について考え、話し合い、ともに取り組んでいく契機になることを期待し、更なる志賀町の教育の充実につながることを願うところです。